

長野県飯綱町は、「平成の大合併」により、平成17年10月、2村(牟礼村、三水村)の合併により誕生。面積75km²、人口約1万人強で農業が基幹産業の町です。人口を除くと合併の経緯、規模は上毛町とほぼ同等の町です。

今年の視察研修で飯綱町を選んだのは、合併直後に突然経営破綻した第三セクターが提訴され、全面敗訴。約8億を支払うことになり、議会は議決責任を問われました。町議会はこれをきっかけに、住民に信頼される議会・議員を目指して「学ぶ議会」を合言葉に議会改革に本格的に取り組みました。以降8年余り、一定の成果と前進を遂げ、新しい地方議会づくりが進みつつあります。マニフェスト大賞に3回入賞するなど様々なメディアの取材も受けていることから、今回の訪問になりました。

議長の寺島渉氏に伺った話を要約すると次のようになります。

平成20年1月から、半年間で30数回の学習会と自由討議を重ね、目指す議会像と改革課題を整理、4年余りの議会改革の実践の成果も踏まえ、平成24年9月定例会で「議会基本条例」を制定、さらに新しい地方議会創りを目指して活動しています。

○議会改革の到達点、8年余りの実践で明らかになったこと

- 議会改革は、議員の意識改革でもある。一過性や単発では不十分。持続的・継続的に実践を積み上げ、活動を定着することが重要。定数・報酬削減は議会改革ではない。
- 町議会の到達点、議会力は向上した。しかし、議員力向上は今後の課題。
- 町議選の直後から、一期目議員対象の定期的な学習会(7~8回)実施、議会力の継続性。

○取り組みの成果と議会と議員の変化ー町長と切磋琢磨し町行政発展の一翼にー

- 同一議題の質疑回数3回の制限をなくし、質疑回数を自由にすることで、議論が活発化した。(会議規則を変えれば変更可能)
- 議員の力量向上と議案の否決、修正、不承認も、一方で町長に解決策の提言書を提出。
- 町議会は否決、修正、不承認にすることにとどまらず、行政執行をめぐる諸問題が発生した場合に、町長に積極的提言を行ってきた。
- 議会として毎年12月頃に、「予算・政策要望書」を町長に提出。
- 一般質問で町長が検討を約束した課題については、半年ごとに検討結果を書面にて議会へ報告を求める。
- 「政策サポーター制度」を新設、実践(町民へ公募、要請し、男女合わせ10~20名)6テーマ町長に政策提言を行ない、人件費の削減、集落振興事業と予算の増額等が実現。
- 開かれた議会、議会への住民参加を広げ「議会の見える化」を実現。
 - ・ 模擬議会・休日夜間議会の開催
 - ・ 町民と議会との懇談会
 - ・ 「議会だより」モニターを57名組織(町民の多様な意見・要望などを把握する一助、議会の応援団)

○今回の視察研修を通じて感じたこと

- 議会の見える化の実現のため、町民との懇談等を通じ積極的に距離を縮める活動。
- 議会活動において、参考になる点は積極的に導入を図る。
- 町長と切磋琢磨し、町行政発展の一翼を担う力量向上を図る。
- 町民、行政、議会がともに学び合う場を作る。できることから、確実に実践すべきと感じています。



議員研修〈長野県〉

平成28年10月25日(火)~27日(木)

しもじょう
下條村

廣崎 誠治

奇跡の村と呼ばれている長野県下條村は、平成28年度健全財政(同規模経常収支比率67.0%)全国2位、実質公債費比率△6.4%で全国1741市区町村中健全度1位、出生率が過去10年平均1.92と高く、全国から視察が相次いでいます。2016年7月に引退した伊藤村長の実績によるものです。

村長が手掛けたことは、村の職員や住民の意識改革を行い、大胆な効率化やコスト削減を実施し、捻出した財源で少子化対策に力を入れ、高い合計特殊出生率(2013年2.03・2014年は1.82人)を達成しています。

職員の意識改革は、民間への派遣を行い仕事の効率化等を学ばせる事で少数精鋭、職員数2014年38人(類似団体の49.5%)課の数も4つにし、住民の方が役場の事務を誰に聞いてもわかるようにしました。係長制度はなく、人件費の抑制も行っていました。

住民の意識改革では、道路の補修など(村道・農道・水路整備)は役場に陳情して頼っていた事を、住民の皆さんに必要な資材を支給し、工事は村民自らの手で行ってもらう事で、コスト削減を行っていました。それは1992年から今まで続いています。年間予算は約1000万円です。

少子化対策として若者定住促進住宅(10棟124戸・1戸建て54戸、合計178戸)を建設。この住宅は国土交通省の補助金を使わず、自主財源で建設(公営住宅法の規定にかからない)。入居条件を「子どもがいる」か「これから結婚する若者」に限定(低所得でなくても入居できる)、人口が増え出生率も上がりました。この住宅では家賃を隣町飯田市の相場の半額程度に抑えています(2LDK33000円~34000円)。その代わりに入居者には、村の行事や消防団などの地域活動に参加してもらう条件をつけ、子育て世代が暮らしやすく、また地域のコミュニティに積極的に関わってもらえるような制度を取り入れています。

下條村は住民と一緒に限られた予算の中、医療費補助、保育園整備、図書館建設、小学校のプール建設も行っていました。少子高齢化・人口減少時代のお手本にしたい村だと思いました。

ぜひ上毛町に取り入れたい施策は、少子化対策事業です。若者定住促進住宅の建設・定住促進住宅補助・義務教育の給食費70%補助など、少子化対策に有効だと思いました。



あずみの
安曇野市

岩花 寛之

長野県中央部に広がる松本盆地の北西部に位置する安曇野市にて、観光事業に関する視察させていただきました。

安曇野市は人口約10万人、東京や名古屋から車で約3時間、長野県で6番目の自治体です。3000m級の北アルプスの山々と裾野に広がる田園風景、豊かな湧水を中心に「安曇野暮らしツーリズム」を提案しています。代表的な観光施設としては「大王ワサビ農場」があげられますが、近年は景観や食だけではなく「朝」という時間に注目し、年間500万人近い観光客を誘致しています。

上毛町と比較した場合、観光施設数、周辺人口規模、宿泊・飲食施設数など、どれも桁が違うのは否めませんが、交流人口をいかに増やすかは、どの自治体においても重要な取り組みの一つです。安曇野市の総合計画の中では活力ある商工観光業を振興する町を目指し、観光基盤の整備、観光情報の発信、新たな観光戦略の実践、受け入れ態勢の整備を挙げておりました。

現在上毛町では大池公園の整備による「顔」づくりを計画していますが、現在策定中の第2次総合計画の中でもしっかりと将来像を提示し、整備後にはいかに活用され、町内全域に波及効果が及ぶ施設にしていくかを考えていきたいと感じました。

